



読書生活始めていますか？

木々の緑が目たまぶしい季節になりました。入学・進級から1ヵ月がたち、新しい生活にも慣れてきたころでしょうか。たくさん本を読んで、視野を広げてみませんか。学校図書館は、様々な分野の本を用意して皆さんの来館を待っています。

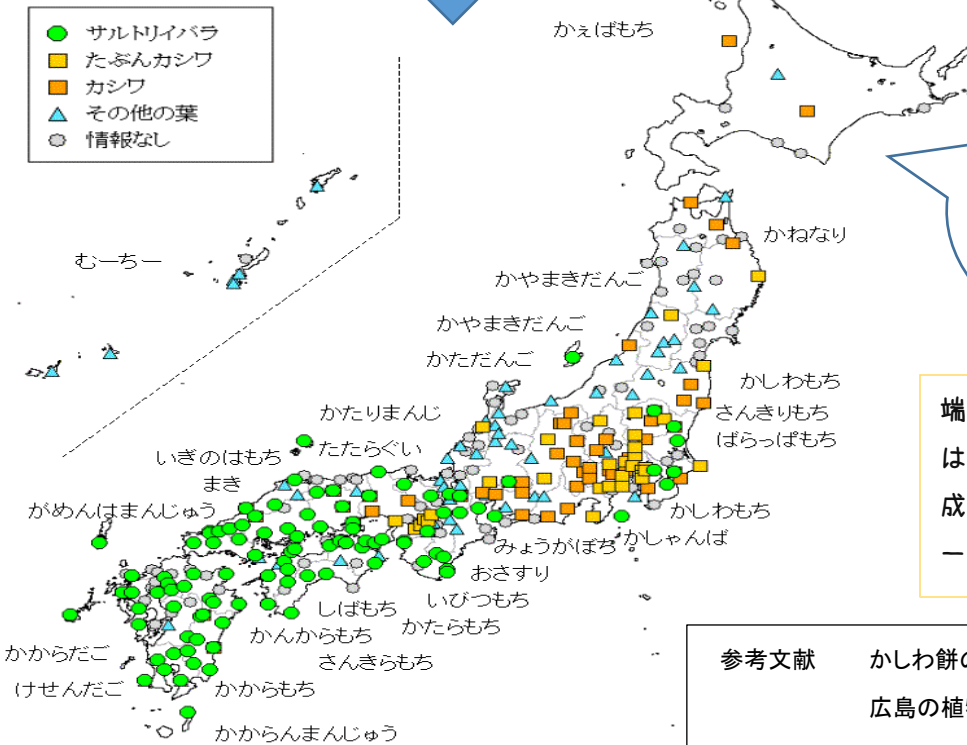
こんなことを調べてみませんか？



みなさん今年は柏餅を食べましたか？かしわ餅は端午節句のお饅頭です。
「なぜ、カシワの葉なの？」

「カシワの木は他の木と違って冬になっても葉が落ちない！」

この「カシワの葉」は特別な葉であり、新芽が出てから古い葉が落ちるという特徴があります。この特徴から、「家系が絶えない」「子孫繁栄」という考えに結びつき、縁起をかついで広まったといわれています。しかし、和歌山では端午の節句には「サルトリイバラ」の葉を使い「おさすり」と言います。岐阜県では、「がんどもち」というそうです。ほかの地方ではどんな呼び名があるのでしょうか？



石川や富山では資料に柏餅の記述がないそうです。

端午の節句に柏餅を食べる習慣は、家族の健康と子どもたちの成長を祝う日本の美しい文化の一部です。

参考文献 かしわ餅の葉っぱで検索
広島植物ノート
<http://forests.world.coocan.jp/fnote/?p=109>

5月生まれの人々

このような時代に生まれ合わせた者として、何もしないで一生を終えてよいのでしょうか。何をなすべきかを考え、その道をひたすら歩いて行くだけです。



【樋口一葉】 1872.5.2~1996.11.23

日本の小説家。彼女は、中島歌子に和歌や古典文学を、半井桃水に小説を学んだ。代表作には、「たけくらべ」「にごりえ」「十三夜」がある。



考えてもどうしようもないことにエネルギーを費やすくらいなら、やるべきことをやったほうがいい。



【伊坂幸太郎】 1971.5.25

千葉県出身。東北大学法学部卒業。宮城県仙台市に在住し、同市はたびたび自作の舞台にもなっている。代表作は『ゴールデンスランバー』（2007年）『逆ソクラテス』（2020年）など、多数。



【3分類】

「ココが変わった!!18歳成人」

【5分類】



【2分類】



「もしも世界がひとつのクラスだったら」



「ウケるゴロ合わせ」



「君のお金は誰のため」



「発明と特許」

【4分類】

「目でみる数学」



「私の職場はサバンナです」



「世界をうごかした科学者たち 生物学者」



「遺伝子・DNAのすべて」



「インフルエンザウイルスを発見した日本人」

【7分類】

「おしごとそうだんセンター」



「推しの子」



「くるまの娘」



「正射必中!弓道部」



「夜叉が池」



「君を守る猫の話」

「優等生サバイバル」



2024年度 課題図書

「希望のひとしづく」 キース・カラブレゼ著

「ノクツドウライオウ」 佐藤まどか



突然、家業の5代目候補だった兄が消えた。シューズデザイナーを夢んでいた夏希は、靴職人として100年続く老舗靴店を継ぐべきか悩む。そんな中、祖父が作る靴を履いた人たちにおきた魔法のような変化を目の当たりにして…。

「アフリカで、バッグの会社はじめました」 江口絵里著



この町で、ふしぎなことが起きている。古い井戸がいきなり、願いをかなえてくれるようになった。理由を知っているのは、3人の中学生だけで…。世界のかたすみからおくる愛と希望の物語。



アフリカのシングルマザーの力になりたい。アフリカの貧困問題を解決するため、女性を勇気づけ、輝かせるために、迷い、遠回りしながら、自分の信じる道を歩んできた社会起業家・仲本千津の“進路決定”ドキュメンタリー。